

う え だ な つ き
上田 奈月

日本総合研究所
リサーチ・コンサルティング部門
マネジャー

2021年9月、ボルボ・カーズは、今後全ての新型電気自動車について本革の使用全廃を発表した。これに加え、日本国内においても「アニマルウェルフェア」に関する意見交換会（第1回）（22年1月、農林水産省）が開催され、当該分野における施策の推進が目指されることとなった。「アニマルウェルフェア」を巡る動きが、自動車業界を含む日本国内においてもいよいよ本格化しそうだ。

「アニマルウェルフェア」とは、「動物の生活とその死に関わる環境と関連する動物の身体的・心的状態」（動物衛生等に関する国際基準策定を担う国際獣疫事務局による勧告より）という概念で、全ての動物にハード・ソフト両面で「5つの自由」を確保することが提唱されている。鶏卵・食肉を扱う食品メーカーや外食産業、皮革を使った製品を取り扱うメーカーおよび小売事業者などがその主な対象で、バリューチェーンを通じてこれらの自由に留意した事業活動を担保することが求められている。

一方、顧客・消費者の理解を得た上で、当該対応コストを販売価格へ転嫁することが必要であるため、「アニマルウェルフェア」に関連する企業の対応はどうしても進み難い傾向にあった。しかし、法規制が整備され、機関投資家からの要請も進みつつある中で、企業として対応を後回しにすることが難しくなっているのが現状であろう。

では、企業として具体的に

どのような対応姿勢をとるべきだろうか。

第一に、こうした潮流を技術開発や顧客獲得の機会と捉え、取り組みの理解者を増やす仕掛けが重要である。他の社会課題と比しても、特に倫理的観点からの要請が強い「アニマルウェルフェア」は、どうしても「リスクとして対応しなければならぬもの」として捉えられやすい。しかしながら、ボルボ・カーズの事例では、開発された代替材が有名ブランドのバッグに採用されることで、新たな価値提供の訴求につながっている。

企業に押し寄せる「アニマルウェルフェア」の波

第二に、他の社会課題との関連性を意識した取り組みを進めることが必要である。例えば、大量生産・大量消費を前提とした家畜の飼育環境を改めることは、森林伐採の進行等を防ぎ、気候変動や生物多様性等の課題解決にも資することができる。これに加え、狭小かつ密集した空間での飼育を是正することは、新型コロナウイルスのような人獣共通の感染症拡大を防ぐことにも効果的な策の一つとなる。このように、社会課題全体における位置付けに留意することで、「アニマルウェルフェア」がサステイナビリティ経営推進における重要な論点と捉えられるようになり、その取り組みの納得感が醸成され得るのではないだろうか。

なお、こうした考え方は、他の社会課題への対応を進める際にも有効である。それと同時に、これらは決して目新しいものではなく、サステイナビリティ経営における基本的なアプローチと言える。サステイナビリティ分野で随時登場する課題にどのように対峙するかを、「アニマルウェルフェア」を通じて改めて考えてみてはいかがだろうか。（次回は4月18日に掲載します）